

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RMM5-005-99-2	2023前期	医学教育部(10080)	1, 2	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
臨床病理学(臨床病理学B1)			中村 公俊, 福島 聡, 田中 靖人, 植田光晴, 坂上 拓郎, 辻田 賢一, 近藤龍也, 中山 秀樹		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……30% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……30% 3.グローバルな視野と行動力……30% 4.地域社会を牽引するリーダー力……10%					
授業の形態	講義				
授業の方法	質疑応答を含む、講義形式、Power point, OHP等を活用する。				
授業の目的	必修科目の「病理病態学」において、病気の種類や発症進展の機構について総論的に学ぶが、「臨床病理学」では、代表的な疾患をとりあげ、具体的な臨床病態とその基礎にある分子機構を学ぶことによって、病気の概念的理解を更に深める事を目的とする。加えて、疾患が神経系や運動系、あるいは特徴ある組織に発症した場合の性状や、免疫不全症のように全身性に病状が出現する場合の機序についても学ぶ。				
学修目標	【A水準】 特定の臓器や、神経系、代謝系など全身生に起こる代表的疾患の病態を学び、病的プロセスにおける分子機構を理解することについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。 【C水準】 特定の臓器や、神経系、代謝系など全身生に起こる代表的疾患の病態を学び、病的プロセスにおける分子機構を理解することについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。				
授業の概要	先天代謝異常、代謝障害、免疫不全症、などの全身疾患、及び、各臓器に起こる循環障害、炎症、腫瘍、変性疾患に関して8人の専門家によるオムニバス講義を行う。各回のトピックスに関しては、下記の時間割を参照されたい。授業ではこれらの代表的な疾患に特徴的な臨床病態とその基礎にある分子機構について学ぶ。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1	05/23	4時限 福島 聡	ゲノミクスからみたメラノーマの臨床病態		
2	05/25	2時限 中村公俊	先天代謝異常の病態と臓器障害		
3		田中靖人 (e-ラーニングのみで開講。Moodleを確認してください。)	肝疾患の最新情報：肝硬変及び肝細胞癌の病態進展メカニズム及び最新治療について概説する		
4	05/26	4時限 植田光晴	神経難病の診断と治療		
5	05/30	4時限 坂上拓郎	抗サイトカイン抗体と呼吸器疾患		
6	05/31	4時限 中山秀樹	歯周病のメカニズムを病理学的に解説し、歯周病が様々な全身疾患の発症に関わることを学ぶ		
7	06/01	4時限 近藤龍也	糖尿病/インスリン作用障害による代謝異常とその合併症		
8	06/02	4時限 辻田賢一	急性冠症候群の病態と抗血栓療法		
授業外学修時間の目安	本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は16時間分(2h×8コマ)となるため、29時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	講師によってはプリントを配布する場合がある。				
参考文献	講義の際それぞれの講師が紹介する。				
履修条件	特記無し				
評価方法・基準	講義への積極的な参加と小テストまたはレポートにより行う。 授業後の小テストまたはレポートは以下の点を評価する。 1) 選択した分野の用語を正しく理解しているか。 2) 選択した分野の背景を正しく理解しているか。 3) 選択した分野の現状を正しく理解しているか。 4) 授業中に強調された事柄を正しく把握しているか。 5) 自分の意見を述べているか。 各授業担当の教員が10点満点で評価(10点×8、80点満点)その合計に5/4をかけて成績を評価する。				
使用言語	「英語」による授業				
教科書・資料の言語	「英語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				